

令和 6 年度第 1 回審議会の振り返り

■円滑化法によるマッチングについて

○都市農地貸借の円滑化法は、平成 30 年度から施行され、6 年が経過しているが、豊中市に限らず大阪府下で思ったほど使われていない。農家側に農地を人に貸すことに抵抗があり、生産緑地であればなおさら意識が強いようだ。また制度自体が知られていないものになってしまっているかもしれない。豊中市での実態をもう少し詳しく聞かせてほしい。

➡ 産業振興課農政係は農業委員会事務局を兼ねているので、耕作不十分な農地への指導を行うことも業務としてあるが、そのタイミングで円滑化法の制度を個別に説明を行うとともに、借りたい人とのマッチングを成立させてきた。個人だけではなく、市民活動を行う団体や、高齢者社会施設などから農地を借りたいという相談を受けた時にマッチングを行ってきた。

■市内事業者による豊中市産農産物の利活用について

○市内事業者による豊中市産農産物の利活用について、市内焼菓子店にレモンを出荷した、市内食品製造業者にじゃがいもを、市内レストランに野菜全般を出荷したとあるが、その働きかけはどのようにされたのか。

➡ レモンについては、商工会議所さんと話をする中で洋菓子店を紹介してもらう機会があり、マッチングが成立した。ただ持続することができず、単発に終わってしまった。

学校給食に提供する時期が過ぎてしまい余ったたまねぎやじゃがいもを市内の食品製造業者につないでコロッケを製造し、学校給食に出してもらった。

出してもらっただけで商品化はされていない。市内レストランへの野菜全般を出荷については、農家さんと飲食店が直接やり取りする中で成立したものである。

○市内事業者による豊中市産農産物の利活用については、市が介在する場合、きっかけは作れても、お金がからむ場合、継続するのは難しいのではないかな。

■災害時の防災機能の向上について

○「防災協力農地登録制度」の周知に努めるとあるが、農家自身が手を挙げて登録するものなのか、市から農家へアクションがあって登録されるものなのかよくわからない。いざ災害が起きてからなし崩し的に農家に負担をかけるようなことになってはいけない。

○防災協力農地の井戸については、国の交付金「都市農業共生推進等地域支援事業（農山漁村振興交付金）」が活用できると思う。

農業会議でも国の補助金を活用した実績があるし、貝塚市さんなどでも国の補助金を活用して、防災協力農地を整備された実績がある。国の都市農業室という部署がやっている地域支援事業があるので活用してはどうか。

■援農隊について

○市民農園利用者アンケートの結果から、総じて関心、意欲が感じられる。参画の意向の結果からもこのあたりの層を掘り起こしていけば援農隊につながるのではないか。

○援農隊について、作業が多岐に渡っており金銭的に折り合わないことがネック。
工夫すればできることもあるかもしれないが、しくみ作りが難しい。

■持続可能な市民農園の運営支援及び新規市民農園開設支援プロジェクトについて

○アンケートで、市民農園の面積、価格、利用期間の拡大について聞いているが、市としてやろうと思えばできることなのか。

➡ m²数を上げることは難しい。ニーズが高いのでm²数を上げると区画数が減ってしまうので。面積を広げたい人には、市民農園としてではなく、例えばグループ化して別の広い農地を借りてもらってやりたい気持ちを応援するなどの方法があるのではないかと考えている。利用期間については、3年は実現可能。事務負担も軽減できる。事務負担は増えるが、連続当選した人には元使っていた同じ区画を使えるようにすることも考えている。

○事務負担がかかるかどうかということもあるが、コストが上がるからできないという類のものではない。

■新しいコミュニティ型市民農園のモデルづくりプロジェクトについて

○花と緑のネットワークでとよっぴー農園を長年やってきたが、今後どのように広げていくか考えているところだ。持続できるようにやっていきたい。コミュニティ農園をやることには賛成。

○コミュニティ農園を運営する側にメリットがあるのはわかるが、従来の市民農園からコミュニティ農園にシフトするにあたって農家側のメリットを把握してもらうことが重要。一方的ではなく、お互いにメリットがないと持続が難しい。

○コミュニティ型市民農園のところについては、国の交付金「都市農業共生推進等地域支援事業（農山漁村振興交付金）」が活用できる。国の都市農業室という部署がやっている地域支援事業があるので活用してはどうか。

■農業施設等の導入支援について

○農業施設等の導入支援について、高齢化や猛暑での作業等に対応した補助対象の拡大とあるが、具体的にイメージしていることはあるか。

➡ 現行の「農業近代化施設等事業補助」制度を今日的な内容に変えていくもの。具体的には、猛暑下での農作業を楽にするための衣服、作業しやすくするものを補助対象に加えることを想定している。

■農業体験（収穫体験）が身近にできるまちづくりプロジェクトについて

○収穫体験を身近にできるのはいいことだが、せっかくやるのなら体験だけに終わらせるのはもったいない。体験の収穫物を使って何かを作り出すというように横への展開ができるのではないか。

○横展開することは、コストはそんなにかけられないのでやっていけばよいと思う。自治体が介入した時に個別にやっている事業を横展開できるというのが、自治体の役割でもあるので、こういったことを意識的にやっていけばよいと思う。